

；第2回宗像市総合計画策定審議会会議録

日 時	令和6年7月9日(火) 19時00分～21時00分
場 所	市役所第2委員会室
出席者	<p>【委員】 相部 麻里 市丸 直人 大淵 裕三子 北野 真市 高山 國敏 中野 和久 小林 愛里 南 博 山下 永子 クレシーニ アン 高松 美香 藤森 一行</p> <p>【欠席】 小川 里美 松尾 真由美 吉武 哲信</p> <p>【事務局】狩野課長 松山係長 山口 川瀬 原田</p>
報 告	<p>(1) 第1回審議会追加資料の説明 (2) 第二次宗像市総合計画の振り返りについて (3) アンケート・ワークショップ結果について</p>
審 議	<p>(1) 宗像市の人口推計について (2) 基本構想骨格(案)について</p>
その他	(1) 第3回宗像市総合計画審議会の開催日と内容について

1 開会

2 報告

(1) 第1回審議会追加資料の説明

事務局説明

(質疑等)

・なし

(2) 第二次宗像市総合計画の振り返りについて

事務局説明

(質疑等)

(委員)満足度や重要度を一緒に数値で表すとわかりやすくなるのでは。

(事務局)資料の表現についてはわかりやすくなるよう心掛けていく。

(3) アンケート・ワークショップ結果について

事務局説明

(質疑等)

(委員) アンケート集計について、「住」という単語にはどのような意味があるのか。

(事務局) 「住みやすい」というような表現が多かった

(委員) 報告を聞くと、現状のままが良いという風にくみ取れるが、これからの10年間の社会情勢がどのように変化していくか、宗像にいることによってどのように社会問題を解決していくかという視点も大切。現状維持ではなく、自分たちでまちを変えていくというような呼びかけも大切なのではないか。

(委員) アンケート結果を見ると、満足度は高いが、実際には宗像が住みにくいと感じて引っ越した人を知っている。アンケートに回答しない人たちはどのように思っているか気になった。

(事務局) 今回のこのアンケートやワークショップに参加された方は比較的現在の満足度が高い方が答えられた参加されたという印象が強いと認識している。一方で、先ほどの資料2のほうの市民アンケートの方法については、無作為抽出でお送りしている。回答率は4割を切るので満足度が高いかどうかは計り知れないところはあるが、こちらのアンケートについては、公共交通に対する満足度の低さというのがある。アンケートやワークショップへの市としての受け止めとしては、満足している方については引き続き満足していただきたい。それ以外にも先ほどアンケートにあったチャレンジすべきところはやはりチャレンジすべきだと。そういったチャレンジなところも、骨子のほうには含めているというふうに考えている。

(委員) 市民アンケートとタイトルがついているが、市外住民の回答が20%を超えていることへの受け止めは。また、市民の意識向上に向けて、協働のまちづくりや市民参加型のまちづくりを進めていくことも大事ではないかと感じた。

(事務局) アンケートは市民に限らず、市に関わっている方を対象に行っていたので、標記で混乱をさせてしまった。市民参画についても、宗像市は以前から力を入れて取り組んでいるので、今回の計画の中でも意識して盛り込んでいる。

3 審議

(1) 宗像市の人口推計について

事務局説明

(質疑等)

(会長) 人口推計について計算上の推計をどうするかというよりは、どう目標を置くか。政策的に、今回策定する総合計画を実施していくことで、どういう人口を目指すかという、推計よりはどう考えるかという部分に御意見頂くとということとい

うふうに理解をしている。

(委員) 合計特殊出生率について、宗像市の現状の数値との整合性は。

(事務局) 宗像市は福岡都市圏平均より低くなっているが、目指していきたい数値だと考えている。

(委員) 定住施策と住宅開発の効果が加算されているが、市でビジョンを持っているのか。

(事務局) 今年度から、東京圏、関東圏などからの移住支援金や若者の定住を促進するために、若者の奨学金の返還支援を開始した。これによって見込まれる数字を当てはめている。また、住宅開発については、現時点で分かる内容で推計をしている。

(委員) 第三次総合計画では人口の目標維持の9万7000人という提案だが、例えば第2次総合計画において、人口減少とはならなかった。今までの10年間、そしてこれからの10年間の税収、人口減少の要因はますます厳しくなっているのかどうか教えてほしい。単純にここ10年間で9万7000人を維持できたから、次の10年間は10万人ぐらいを目標において様々な施策を展開するといったチャレンジ的なプランや目標もあるのかもしれないと考えた。それが人口減少の状況により厳しくなるということであれば、9万7000人を維持することも厳しくなるので、9万7000人という数字はチャレンジングなものなのか、考えを聞きたい。

(事務局) 第2次総合計画のときには、10年後には人口が9万3000人になるところを9万6000人で設定した。今回は10年前よりも目指す人口へのギャップがもう少し多い。9万3300人の推計に対して9万7000人を維持する目標となっている。社会情勢としても、日本の総人口が少なくなっていることで、宗像市の人口が増えている要因が社会増によるものであることから、なかなか厳しくなってくると考える。一方で、福岡県、特に福岡市、福津市、福岡市周辺は、今後も人口が伸びるという推計も出ている。市としては、できる限り、目標を高く持っていきたいというところで9万7000人を設定させていただいた。

(委員) 人口の維持は高い目標であることが認識できた。

(委員) 人口の総数だけでは判断できない。生産年齢人口の幅をどれだけ増やすかが重要であり、資料中のそれぞれの推計ごとの年齢割合の変化によって話も全く変わってくる。加えて、子育てや福祉のように子育て世代が増えて、社会投資が増えて、予算の持ち出しが増えるなど、子供が増えていると、市もすごく厳し

くなってきているところもある。また高齢者が福岡市内で生活が厳しくなって介護施設にも入れないので、入れるところに入るといって郊外にどんどん移っていくというような、ある程度構成比を考えた上で、やっぱり生産年齢のところをしっかりと保ちつつ、年齢構成によって必要なお金が異なるので、構成を見ることはすごく大切なところだと考えている。宗像市が推計した人口構成を示してもらってより分かりやすい

(事務局) 調査の結果は改めてお示しさせていただく。資料それぞれのシミュレーションにおける年齢構成は確認して情報提供させていただく。

(会長) 定住施策と住宅開発のところは、推計というよりも市としてどう設定するかという話だと感じている。ここでの議論というより、どう設定する前提でこの数字を出したのかということだと思う。どういう考えで、こういう設定になっているのかというのを説明してほしい。

(事務局) まずは目標として人口を維持したいというところがある。それが現実的なのかどうかというところでシミュレーションをした。詳細の設定については、今日の議論を持ち、もう少し詳しくシミュレーションしていきたいというふうに思っている。提示した推計が維持というのは、答えありきでつくったものではない。合計特殊出生率と、定住移住施策、住宅開発という項目があるが、合計特殊出生率は宗像市が福岡都市圏の中で平均より少し下だが、これを福岡都市圏の平均並みに上げようというところで、決して無理やり大きくしたわけではない。加えて、定住移住施策についても、令和 6 年度から取り組んでいる施策の中身を、この分に当てはめて、算出している。最後の住宅開発についても、情報をいただいている住宅開発のうち、市内から市内への転居を半数、残った半数が市外から転入したという想定で算出している。人口維持について、全く想像できないものか、想像しうるものなのかで考えたところ、十分想像しうるラインだということで目標設定をしている。

(会長) 審議事項の 1 番目だが、今後、事務局において検討するに当たり、内訳の部分はともかくとして、総数について、現状の人口を維持していくということについては、今日この場で一定の合意を得る必要がある。人口の総数を、維持していく方向で、今後の宗像市のいろんな施策だとか市、将来像とか施策を考えていくという、その点について、異議や事務局への質問等があれば聞かせてほしい

(委員) 都市圏の人口は、社人研の前の発表では人口は減少するような状況だったが、福岡都市圏については伸びている。消防でも、人口が増えれば増えるだけ災害件数も増えてくるという可能性がある。その辺の消防の中でもやはり、福岡都市圏の中では、宗像市や福津市は圏域内で 1 番端であり、その中で

考えると、都市圏は増えているけど、どこが1番先に減ってくるのかという危機感は多少持っている。それを考えていくと、消防としても、人口については気にしており、施策を行うにあたっては、大きなビジョンを打ち出してもらいたい。極端にいうと、筑豊、筑後地区の地域で相当人口が減っており、その分福岡都市圏、特に福岡市、春日市、筑紫野市などの西鉄大牟田線沿線の人口が増えている。宗像にはJRが1本しかないということも影響しているのではないかと。

(委員)人口維持を目標とする以上、相当の覚悟を持っていかないといけない。どの市町村でも同じようなキャッチフレーズみたいなものではなく、やっぱり宗像だからというような、自然に関しても今のままでいいのかみたいな、もっとしっかり宗像のことを、宗像の良さをしっかりと言語化して、本当これがあるからというように、また、維持するというのは10年間を見据えた上で、本当に個性的な、こういう人たちに来てほしいというようなものをつくっていかないといけないと感じた。

(委員)どうして福津市は人口が増えているのか。

(事務局)推測ではあるが大型の商業施設ができてからがかなり急激に伸びているのが大きいと感じている。以前は、JR福間駅から南側を見ると、緑の丘陵地帯や田んぼが広がっていたが、そこを全て住宅地に変え、その一角に商業施設を誘致したというところ。ある意味急激な増加で福津市は今、学校の建て替え問題等が起きているが、そういったところで、開発による急激な増加がJRの福間駅周辺や昔消防学校があったあたりの周辺、そういったところで起きている。

(会長)今この場で、現状維持でよいかを決定するというのは難しいかなというふうに思う。現状維持していくというのを前提に考えたときに、この中身でいいのかもってこういう部分厚くしないといけないのかという議論もあると思うので、9万7000人というのを、計画終期である2035年の時点での目標人口と仮置きして今後の議論を進めるということではよいか。

→合意

(2) 基本構想骨格(案)について

事務局説明

(質疑等)

<将来像について>

・(委員)言語学の専門の立場からすると、自分らしく生きると、自分らしく暮らせるという、二つの言い方があるが、自分にとってそれを全然違う表現だと思っており、日本はとても暮らしやすいが生きづらいところがあるなど思っている。健康保険や学校、安全、まちがきれいなど、日本は素晴らしいが、障がいを持つ人や外

国人やLGBTなどいわゆるマイノリティーには、ちょっと生きづらいなと感じている。自分らしく生きるということはもちろん大事だが、生活の「暮らす」と、自分らしく「生きる」ということは全然違うので分けて考えたほうが良いと感じた。

(事務局)事務局内での検討では「心地よい暮らし」という表現も検討した。最終的には自分らしく生きるに記載しているが、今回の審議会で頂いた御意見をもとに事務局で再度検討させていただく。委員の御指摘は「暮らす」というよりは生きるという部分について、そういう言葉を使うのであればそれに見合ったものではないといけないという御指摘であったというふうに理解をした。

(委員)生活と人生の違いである。生活は楽であるが、人生はどうか、と感じる。知人が「宗像は生きづらい」という理由で引っ越したことがあり、本当に残念なことであった。私たち人間はそのような暮らしやすい場所をつくることには努力しているが、生きやすい社会にはまだなっていないと感じており、そこに力を入れることができれば良いと感じた。

(委員)7月1日に大雨があり、赤間駅周辺が浸水したことが全国に報じられた。その際に全国の友人から「宗像は大丈夫か」という連絡がきた。30年ほど宗像で働いているが、自分の若いころ、赤間駅周辺は浸水していた記憶がある。ここ何年かは赤間駅裏栄町付近に排水ポンプがついていると聞いていたので安心かと思っていたが、やはり駄目であった。浸水の情報全国的にニュースで流れてしまうと、市は人を呼び込みたいと思っても、マイナスイメージがついてしまう。しかし、浸水していた箇所は市内でもごく一部である。その一部のために「やはり宗像はやめておこう」と考える人もいるかもしれないので、宗像市内で浸水に弱いのであれば、対策をとって、その辺の安全アピールを行えば、「宗像に住んでみようかな」という気持ちになるのではないかと思う。

(委員)自然と安心について、私は宗像の1番の自然は海であると考えている。海と川と山がつながっているのが、宗像が自然というときには「海川山」と言うべきではないかと思っている。そういったことを前提として、「自然と安心に包まれ」という表現はそぐわないのではないか。海川山をこれからは一人ひとりが守っていくとか、大切にしていとか、地球環境もだが、当たり前そこに安全にあるという状態が前提になっているのではなく、「海川山を守り」や「安心を作り出す」など、自分たちでつくっていることを述べるべきである。さらに言うなら「ずっと住みたい」というのもぼやっとしていて、英語で言うなら「I want to live」ではなく、「WILL」とか意思を持って住みたいという気持ちを表現すべきである。いろいろな市町村の都市像を見ているが、「誰かが整えてくれるので楽をして住みたい」というものになりがちである。しかし、本当に気づいているところは「これは私が考えていることだ」という響きが都市像に設定されている。20年30年前の都市

像はやめて、社会が変わっていく中で、「私が主体的に取り組まなければ、この都市像、私が大好きな宗像は存続できない」という、当事者意識のある、具体的な自然が豊かであることなどを細分化して、海川山などの他の地域とは異なる特徴を表現すべきである。

(委員) いろんな市町村のスローガンを見たが、どれも同じに見えると感じている。私は他の地域から移住してきた立場であり、宗像以外の近隣地域も移住先の候補として検討していた。宗像を選んだ理由は、私自身が食べることが好きで、おいしいものがたくさんある地域を選びたかったからである。道の駅宗像が全国的に有名で、そこに行けば豊かな食生活が送れそうというイメージが大きな要因であった。実際に暮らしてみて、毎日楽しく料理をし、起業にまで至ったという経験をしている。能動的に宗像に住みたい、宗像を選んでもらえるような将来像のキーワードが必要である。「ずっと住みたい」という言葉は、もともと住んでいる人に向けられているようで、市外の人が自治体として自分たちを視野に入れてくれているのかと疑問を感じるかもしれない。「宗像にはこれがあるから住みたかった」という能動的な市民が増えると良いと感じた。事務局から説明があったアンケートの結果でも、無回答や「ない」と回答する割合が減ってくるのではないかと考える。動きをつくるためには、キーワードやキャッチコピーが重要であり、受け身ではなく、宗像市としてこういう人を呼びたいということが伝わるようなワードが良いのではないか。

(委員) 率直な感想として、「自然と安心に包まれている」という表現はイメージしにくいと感じる。解説を見ればわかるが、自然は景観的な自然や自然がもたらす豊かさなど、幅広い意味を持つ。そういったところが解説を読まないと分かりにくい。また、「安心に包まれる」というのも同じである。住みたいまちがある一方で、住みたくなるまちも当然ある。その辺りが基本構想で将来像を示し、基本計画や各施策に反映されるべきである。市が目指すべきところを、挑戦的に、再度、将来像を設計した方が良いとの印象を持った。

(委員) 私は愛知県から結婚を機に宗像に引っ越してきた。子育て支援センターで転入者に会う機会が多く、宗像市の様々な分析資料を見る中で、転入者の多くが「宗像は水道代が高い」と話している。「ずっと住みたいまち宗像」というスローガンを見たときに、ずっと住みたくなるとは、ここで暮らし、家庭を持ち、仕事をするのだと考える。つまり、働く場所も学ぶ場所も必要である。宗像に大きい河川がないことは大きなネックであり、そのネックに対してどう取り組むかが資料に記載されていない。また、それを補うほどの魅力を打ち出さなければならぬと感じている。外国にルーツのある方にも時々会うが、私自身カナダで生活してい

た際には学校や地域にバックアップの体制があり、母親として孤独を感じることはなかった。宗像市の幼稚園や保育園に通う子どもたちや、未就園児を持つ親に対しても、周囲の人々が頑張ってサポートしているが、行政としてのサポート体制も必要である。外国人人口の増加を考慮し、そうした対応が求められると感じている。

(委員)他の委員の意見を聞いて、「なるほど、そのとおりだな」と思う。日々、宗像市民と話していると、宗像が好きだという方が多いが、具体的な理由がなくても漠然とした郷土愛を持っているのは素晴らしいことである。宗像の誇りを感じられるキャッチコピーが組み込まれていると、自らまちの自慢をしたくなるような気持ちになるのではないかと思う。

(委員)上下水道代について、宗像市では8立方メートルが基本料金であり、使用量が少なくても1か月に約2800円の上下水道代が請求される。教育大学周辺にはひとり暮らしの学生も多く、この基本料金では8立方メートルまで使用しない方も多いのではないかと考える。こういった点についての見直しを議会等で議論していただければと思う。また、子育て教育については福津市の事例があったが、児童数が1000人を超える学校もあり、そういった地域から転居を検討する際、宗像市の市立学校が子育て世代にとって良い選択肢になる。したがって、この良い面をさらに拡充すべきであると考え。一部市費で負担している少人数算数の先生や特別支援に配置される支援員もいるが、これらの拡充についても、先駆的な自治体の事例を参考に取り組むべきである。

(委員)教育の立場から考えたとき、今日の会議で出た「生きづらさを感じる」という言葉が印象的であった。教育の面で多様性をしっかりと身につけさせることが重要であると感じている。私が現場で感じているのは、外国から労働のために子供を連れてくる親が増えていることである。福岡市でも同様の状況があり、日本語指導が話題になっている。全く日本語が話せない子供が来ることはよくあるが、その場合、サポートするにも限界がある。担任の先生では対応が難しく、日本語指導の先生も常に付き添うわけにはいかないため、ジレンマを感じる。来日直後こそ手厚くサポートすれば、多くの問題が解決できると考えている。これから人口を維持していくには、外国人も移住しやすい環境づくりが重要であり、多様性に関するサポートがあれば安心して宗像市を選んでもらえるのではないかと考えている。もう一つ、郷土愛についても同様に、小中一貫コミュニティ・スクールのカリキュラムに郷土愛を取り入れており、子供たちが地域の良さを学び、9年生で卒業する頃には地域に貢献する喜びを感じながら育っていけることを目指している。宗像の持つ独自の良さをキャッチフレーズにどう表現するかを考えながら

聞いていた。自然という言葉を「海・山・川」と言い換えるだけでイメージが広がるような言葉を吟味することが非常に重要であり、私も今後しっかりと考え、意見を述べられるように努力したい。

(委員)現時点で十分だと考える。委員の皆様の意見を聞かせていただき、学び、考えを深めている状況である。

(委員)定住や移住についての意見がいくつか出たが、私はもともとここに生まれ育ち、何をすべきかを考えている。伝統や文化、生活や自然は、住民自らが守っていると感じている。地域の清掃や草刈りも行政に頼らず、住民自らがやっている。それによって地域のつながりが強化され、災害にも強く、年を重ねても地域で仲良く過ごし、認知症にならずに生活できることが宗像の良さであり、日本の農村の良さでもある。宗像には農村部もあり、宅地開発で多くの人々が住む地域もある。このような多様な地域のバランスを考えると、教育が最も重要であると考え。子供たちが地域に愛着を持ち、宗像に住み続けることで人口減少の幅が小さくなるのではないかと。会議で多くの良い意見が出たが、将来像については、さらに具体的に強みを発信していく必要があると考える。10年前の計画との違いについて、「ときを紡ぎ」とあるが、この「とき」は10年間で大きく変わった。これからはITやAIなどの技術革新が進む中で、考え方も変わる。そうした内容をどう計画に取り入れるか、特に情報の取得方法や発信方法が変わった。また、若者と高齢者のギャップも多く存在し、それを整理していく必要がある。非常に難しい時代であるという感想である。

(事務局)フレーズ一つをとっても、まだ検討すべき項目はあると感じた。能動的に住みたいと思ってもらえるようにするには、宗像の良さをもっとフレーズで表現しなければならないと思う。いただいた意見をもとに事務局にて検討する。

(委員)様々な都市像が考えられるが、市としての姿勢が問われる。例えば「常に新しさを更新していくまち」といったフレーズがあれば、そのようなまちに住みたいと感じる人々に響くと思う。宗像が今後どのような姿勢でまちづくりを進めていくのか、総合計画が行政計画なのか、市民とともに作るまちの計画なのか、そのスタンスによっても異なるだろう。もし宗像市としてチャレンジを推進する姿勢を持つのであれば、起業家などチャレンジを望む人々が集まるようなメッセージが必要である。何も変化のないまちであれば、穏やかに暮らしをつなぐまちとなるだろう。アンケート結果には表れていないが、総合計画を運用する職員や市長の考えも含め、そうした姿勢を反映させることができれば、事業を推進する際にも常に都市像が意識される。都市像は作って放置されることもあるが、しっかりリン

クさせながらマネジメントできるような仕組みを考えてほしい。

(会長) 先ほどの人口推計の議論からも、10年後に9万7000人を維持するというのは踏み込んだ目標人口の設定である。それが将来像と一致するかどうか、メッセージが対外的にも庁内にも伝わるかどうかを含め、検討していただきたい。

(委員) 宗像市はむなかた魅力発信アンバサダーを募り、それぞれ活動をスタートしているが、アンバサダーはシビックプライドを持って活動していると感じている。誇りやプライド、郷土愛は、もともと住んでいる方と新しく移住してきた方が共有できる部分であると感じる。シビックプライドという言葉は、宗像を愛する人々の合言葉となりつつあるように感じている。

(委員) 現在、宗像に住んでいるのは職場が宗像にあるからであり、宗像に住む方が良いと判断して住んでいる。定年後、住みたい場所を選べるようになったとき、「住みたいまち」として宗像を選びたいと思う。

(会長) 事務局には本日の委員からの多岐にわたる意見を十分に踏まえ、検討を進めていただきたい。

<分野の分け方について>

(会長) 基本的には、施策分野について九つに分けて整理をしていきたいという説明であったと考えている。この点について、市役所の組織との整合性はどのように考えているのか教えてほしい。

(事務局) 基本的には市民に分かりやすく表現することを第一に考えている。できるだけ組織でも区分できるよう整理を進めていきたい。

(委員) 行財政・デジタルの分野について、これで良いのかという疑問を持っている。思い切った意見だが、基盤として自然環境や災害に強いまちを置くのはどうかと考える。

(事務局) 意見を踏まえて再度検討する。

(委員) 雇用の創出やごみ問題など、宗像市にはまだ懸念点があるように思う。

(会長)

次回以降、庁内でのワーキンググループで検討した結果を網羅的に事務局から報告してもらいたい。

(事務局) 事務局からも委員の皆さんに意見を頂きたい点がある。教育の施

策の中に「生涯を通した多様な学びの支援」ということで、学校教育や社会教育を含めた生涯教育がある。一方で、市民活動の中にも社会教育を含めたスポーツや文化の要素がある。事務局としては、現在提示している分け方で整理できていると認識しているが、委員の皆さんの意見を伺いたい。

（会長）現在の組織と取り組みに基づいた分け方であると理解した。他に分け方があるかどうかの確認だと認識している。

（委員）田熊山笠では小学校を巻き込んで活動を行っているが、山笠に至るまでの道具の作り方など、伝統的なことを子どもたちに教えることによって、世代間の交流につながっていると感じている。交流を通じて顔見知りが増え、地域のコミュニティが広がることは非常に良いことであると考えている。伝統行事を受け継ぐ子どもたちが楽しんで参加し、ゆくゆくは定住につながると良いと感じている。

（委員）生涯学習の部分でうまく重ねることができないかという視点で資料を見ていた。ワークショップの報告の中にも子どもと高齢者の交流について触れていたが、互いに関わり合うことで地域への愛着が育まれることは非常に価値がある。学校ではふるさと学習という形で多くの地域の人々に協力を求めている。その中で、子どもが大人になったときに地域で文化活動やスポーツに関わることができると、宗像では学び続ける機会があることが伝わる。子どもに関わることが生きがいにつながると分かると良いと感じている。うまく整理すれば重なるとも考えている。

（会長）分野名の下にある文言については、まちの将来像との整合性が取れている必要があるため、まちの将来像が変わる場合、例えば産業の分野で「地域資源を生かした持続可能な産業を推進するまち」という文言も変わるようになる。産業の分野では起業のイメージが出てこない。この点はまちの将来像の見直しに合わせて、分野名の下にある文言も変更するという認識で良いか。

（事務局）その認識で間違いない。

（会長）九つの分野に分けることについて、了承いただけるか。

（委員）分野ごとの表記になっているが、分野を横断することができると分かれば良いと考える。例えば健康福祉や都市、環境など、密接に関連している分野があるため、分野に分かれているから自分の問題がまたがっていると市民に誤解されると困る。

（委員）まちづくりの視点については、将来像を実現するための行動につながる資産や価値が重要であると考えている。現在は文章で表現されているが、「海山川」、「教育」、「協働」といったカテゴリーに分け、将来像の下に配置し、九つの分野を推進する際にこれらの資産を活用する方向で事業を進めると良いので

はないか。将来像に到達するための行動を促す際に活用するものは資産と考えている。資産という視点で組み替えることで、他の委員の意見も可視化・反映され、マネジメントしやすくなるのではないか。

（会長） 九つの分野に分けることについて、共通の視点について事務局から説明した上で、分け方がこれで良いかどうかについて改めて意見交換を行う。

<共通の視点について>

（委員） 将来像における「自分らしく生きる」と「チャレンジしたいときにチャレンジできる環境を整える」という部分が、この横串の視点に含まれるのか、それとも全体的に各分野においてチャレンジできる環境を整えていくという意味なのか。特定の分野だけでチャレンジできる環境を整えるのか、その点が分かりにくい。

（事務局） 1 分野に限らず、さまざまな分野で横串的なまちづくりの視点として記載している。それぞれの分野で地域資源をベースに活躍でき、つながる環境を整えていきたいという意味で、この視点を設定した。

（会長） チャレンジもいろいろな分野において横串的な取り組みということで良いか。

（事務局） その通りである。

（委員） 多様性や多文化共生について講演を行うと、多様性や SDGs といったキーワードが使われるが、その意味が正しく伝わっているか疑問に思うことがある。このような言葉は耳触りが良いが、具体的にどうなのかを説明することが重要であると感じている。

（委員） 聞こえの良い言葉で、分かったようで実は分かっていないことがある。例えば、誰もが望む生活を送ることは、自分が好き勝手に生きるという意味ではなく、お互いを尊重し、理解し合いながらそれぞれが望む生活を送ることが大切であると考えている。市民同士の関わり方について、もっとイメージが湧くようになると良い。具体性を持って、どういった暮らしを目指しているのか、そういったまちづくりのイメージが伝われば良いと思う。

（委員） 個性を尊重するという言葉があるが、その意味をきちんと説明しなければ、コミュニティ精神が崩れてしまうのではないかと心配している。

（会長） まちづくりの視点に関して、これは行政内部での考え方なのか、市民全体に対して発信していくものなのか、どちらの視点で考えるべきか。

(事務局) これは行政内部で、この視点を持って施策に取り組むという意味で作成している。

(会長) ここで出た意見を聞く限り、共通の視点を行政内部の施策に取り組むためのものとして理解されている方はほとんどいないと思う。つまり、このまちづくりの視点がそうした位置づけであることが全く伝わっていないということである。中身や文言、位置づけも含めて見直しが必要であり、行政内部のものであればそれに特化し、市民向けに発信するものであれば、それに見合った内容にすることが必要である。

(事務局) 内部で協議し、改めて提示する。

(会長) 今回の審議会では、分野の分け方について特に異論はないように理解しているが、この分け方で進めて良いか。

(全員) 異議なし。

4 その他

(1) 第3回宗像市総合計画審議会の開催日と内容について

5 閉会